



子育て伴走「だいじょうぶ！」通信 No. 20 ～みんな大切 笑顔あふれる家庭とこども園に～



R 8. 7. 1 3 やすぎこども園 園長 福島朗博

◆園風景から 梅雨明け 夏本番！～プールや水遊びの歓声が響いてます～

例年より早くプール開きを早めたにもかかわらず、雨続きで入れませんでした。ついに夏本番！プールから子どもたちの楽しそうな歓声が聞こえてきます。夏でしかできない体験をいっぱい味わってほしいですね。



◆講演「子育てで大切にしたいこと！子どもの成長や困り感に寄り添うために？」

講師 島根大学教育学部附属学園学習生活支援研究センター 宮崎紀雅先生

6月6日保育参観日の保護者講演会にはたくさんのご参加をいただき、ありがとうございました。講師の笑顔と投げかけで、日頃の子育ての困り感を話し合ったり疑似体験しあったりの、和気あいあいの会でした。その内容を振り返ってまとめてみました。

○子どもが困っていることって？ …3つあります



自己コントロール（行動・動作・情動）に困っている子

⇒行動や動作、情動において自己コントロールする力をつける。

人とのかかわり（攻撃・逃避・注目）に困っている子

⇒攻撃は防衛反応、注目行動は我慢の限界の表れかも…と考えて、人とのかかわりがうまくいくようにする。



情報の処理（出力・入力・記憶）に困っている子

⇒情報処理する力を身につける、他の方法で補う。例えば、内容や言葉を復唱させたり言わせる。→「わかった？」「うん」では子どもの脳は働かないので、「〇〇のときは？」と投げかけて続きを言わせる。



○子どもの困り感にどう寄り添うか

寄り添うためにどんなことを大切にしたらよいかを探ろうと、発想転換クイズ！

実際にスライドの絵や図を見て（写真上）感じたことをもとに、脳の使い方や性格の違いについて体験しました。そこで大切にしたいことは…！

① 発想の転換をする！

子どもの対応に困れば困るほど＜子どもが何に困っているのか＞と見方を変えてみる！

⇒かんしゃくや怒りは＜子どもの困り感である＞という発想の転換

⇒いつもできないことができたときに＜どうしてできたの？＞と考えてみる発想の転換

⇒「集中できない子」はアイデアマンタイプや切り替えタイプかも！

⇒「（絵や図が）わからない子」は集中タイプかも！

② 子どもの強みを活かそう！

子どもの認知の特性は＜脳のくせ＞であるので、強みを見つけよう。

例えば、両手を組んだときに…

左手親指が上にくる人は⇒右脳タイプで＜絵や図で考え、見たり書いたりを好む＞

右手親指が上にくる人は⇒左脳タイプで＜言葉で考え、聞いたり読んだりを好む＞

両手を組んだとき
上にくる親指は
右手？ 左手？



③ 不快感情を受け止めよう！

子どもの頑張りや嬉しさだけでなく＜しんどさ・苦しさ・不安・辛さ・悲しさ・怒り・悔しさ…＞も言語化できるように、子どもの負の感情を察知して＜適切な言葉にして＞結び付けてあげる

また、頑張る力や耐える力は「頑張れ」という言葉ではつかない力。「えらかったね、しんどかったね」と代弁したり受け止めたりしてあげることが大切で、その積み重ねで力がついていく。

○子どもの成長（困難さ）にどう寄り添うか

いつも後片付けができなくて注意されるAさんを取り上げて、気持ちを考えてみました。

考えられる＜困っていること＞は… 次のどれか？かも！

⇒指示されたこと（声）を忘れてしまう。言われたことが分からなくなってしまう。

⇒見た物にすぐ反応して（し続けて）しまう。＊見方変えると＜集中が早い！＞

⇒見て探せない。一度に見られない。 →目玉の動きのトレーニングが有効かも

⇒自分のことが上手く（すぐに）話せない。

でも本当は、Aさんが一番（後片付け）したいのです。

→「本当はしたかったんだよね」「わかっているよ」「疲れてたんだよね」

と意欲と不快感情を共感する。

→後片付けができた時に「すごいね!」と「なぜできたのか」を話し合う。



実際にスライドの『よくわからない図』を見て「何でしょう?」と当てるクイズで、ヒントが出る度に「わかった!」と答える人が続出して自分だけが取り残される体験をしました。周りにはできているのに「自分だけができない…」と不安がどんどん大きくなっていくのを感じました。子どもたちはいつもこんな気持ちを抱いているのだな、と子育てや保育の中で気持ちを常に想像していくことの大切さに気付かされました。

保護者の皆様からたくさんのご感想をいただきました！ありがとうございました。

親は親のことに集中しがちですが、ふだん親が困っているとき、子どもが何に困っているのか考えるという視点がとても大切だとわかりました。まずはそこから、不快感情の共感に向けてかわりたいと思います。とても楽しく参考になりました。

子どもとのかかわりの中で悩むことも多く、子どもの性格、親自身の問題と考えることも多かったです。今回、脳科学の観点から、子どもの特性を読み解き、専門的にお話を聞かせていただき、大変面白く学ばせてもらうことができました。もっとたくさんの時間をかけてお話を聞き学びたいと思いました。

右脳タイプ左脳タイプでこんなに違うんだとびっくりしました。旦那さんとまったく違うタイプだったので、楽しみながら講演が聞けました。ありがとうございました！

お話もわかりやすく、楽しい講演でした。

今回の講演は聞くだけでなく、クイズなどもあり、とても楽しかったです。先生のお話もとてもためになり、家庭で実践しようと思いました。

子どもの視点や発達を考える、先生からの学びのおかげもあり、「そういう時期よね」と、ふだんの生活で子ども自身への困り感はありませんでしたのですが、一緒に話を聞いていた主人のその日からの子どもへの言葉かけやかかわり方が変わりました。まだ数日ですが、家族で穏やかにすごせています。以前は、子どもに求めるものが多かったように思いますし、私が伝えるより第三者の専門家の方から伝えていただくほうが、省みて自分事として考えられたのではないかなと思います。

5歳の子どもへ「人間始めて、まだ5年だものね」と、大人の都合のよいようにしようなんて思わず、子どもの成長を楽しみたいと思います。

日頃の子育てを振り返るよい機会になりました。子どもの成長だけでなく、困り感にも目を向けながらかかわっていきたいと思いました。子育てのヒントをたくさんいただき、ありがとうございました。